

令和4年度地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公 表 者：国立大学法人弘前大学長

-	寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
1	八戸市立市民病院事業	20,000,000	令和4年4月15日	<p>寄附講座 (地域周術期管理医学講座)</p> <p>手術を受ける患者さんの安全な周術期管理を推進するために、臨床、基礎両面から周術期管理に関する研究を行い、八戸市立市民病院とともに得られた研究結果を臨床応用していき、術後に地域社会において健やかで心豊かな日常生活へのスムーズな復帰に寄与する医療システム構築を目的とする。</p>	<p>弘前大学大学院医学研究科では、各臨床医学講座が、地域医療に関する講義を担当科目内で行っている。また、八戸市立市民病院など学外の関連医療機関と協力して、診療参加型臨床実習を実施し、地域医療に関する卒前教育の充実に努めている。</p> <p>更には、臨床医養成においても、地域医療を担うための多種多様の臨床経験を積む必要があることから、多くの関連医療機関と連携しているが、八戸市立市民病院は研修医の受け入れ人数の多い病院であり、医学研究科並びに附属病院にとって重要な医療機関の1つである。特に高度急性期医療に関しては、弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院並びに八戸市立市民病院によって青森県全体をカバーする構図になっていることから、高度急性期医療の柱の1つである周術期管理に関して、附属病院麻酔科、集中治療部の協力の下、地域周術期管理医学講座を中心に八戸市立市民病院と強く連携して教育、研究、診療することは必要不可欠であることから、寄附を受け入れたものである。</p>	<p>寄附講座設置日：R3.4.1 設置期間：R3.4.1～R8.3.31</p> <p>令和3年度 20,000,000円 令和4年度 20,000,000円 令和5年度 20,000,000円(予定) 令和6年度 20,000,000円(予定) 令和7年度 20,000,000円(予定)</p>
2	沖縄県病院事業局	1,500,000	令和4年4月21日	<p>北部地域及び離島医療研究事業 実地診療研究助成</p>	<p>へき地医療拠点病院である沖縄県八重山病院から依頼を受け、本学から医師を2名派遣することとなった(2019年4～9月、2019年10月～2020年3月)。そのことに対し、沖縄県から離島勤務医師に対する助成制度を利用した寄附の提案を受け、本学の研究活動等幅広く活用するため寄附を受け入れたものである。</p>	
3	十和田市立中央病院	20,000,000	令和4年4月28日	<p>寄附講座 (地域侵襲制御医学講座)</p> <p>麻酔科学は、手術侵襲から生体を防御するために行う。このため、麻酔深度を管理するほか、出血や侵襲に伴う循環、呼吸、体温変化や炎症などの生体反応に対しても対処する。適切に侵襲制御を行うことで、術後に地域社会へのスムーズな復帰に寄与する医療システム構築と侵襲制御に関する臨床、基礎両面からの研究を目的とする。</p>	<p>医学研究科では、各臨床医学講座が、地域医療に関する講義を担当科目内で行っている。また、十和田市立中央病院など学外の関連医療機関と協力して、診療参加型臨床実習を実施し、地域医療に関する卒前教育の充実に努めている。更には、臨床医養成においても、地域医療を担うための多種多様の臨床経験を積む必要があることから、多くの関連医療機関と連携しているが、十和田市が設置している十和田市立中央病院は本学卒業の研修医の受け入れを多く行っている病院であり、医学研究科並びに附属病院にとって重要な医療機関の1つである。また、上十三地区の基幹病院として、その地域の急性期医療を担う重要な病院である。このため、侵襲制御を必要とする周術期管理に関して、附属病院麻酔科、集中治療部の協力の下、地域侵襲制御医学講座を中心に十和田市立中央病院と強く連携して教育、研究、診療することは必要不可欠であることから、寄附を受け入れたものである。</p>	<p>寄附講座設置日：R4.4.1 設置期間：R4.4.1～R9.3.31</p> <p>令和4年度 20,000,000円 令和5年度 20,000,000円(予定) 令和6年度 20,000,000円(予定) 令和7年度 20,000,000円(予定) 令和8年度 20,000,000円(予定)</p>

令和4年度地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公 表 者：国立大学法人弘前大学長

-	寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
4	大館市	33,000,000	令和4年6月10日	<p>寄附講座 (大館・北秋田地域医療推進学講座)</p> <p>地域医療を担う優秀な若手医師育成のための卒前・卒後医学教育の在り方に関する研究と、地域医療の現場で国際水準の質の高い医療を提供できる医師養成のための生涯教育の実践を通じて、地域医療、特に大館・北秋田地域における医療連携に関する研究を行うとともに、その研究成果の普及活動を行い、地域医療の充実と住民の健康福祉の向上に寄与することを目的とする。さらに、がんを中心とする同地域において重要な疾患の予防、診断、治療に関する研究を通じて、地域住民の社会福祉の向上に寄与することを目的とする。</p>	<p>弘前大学大学院医学研究科では、多くの臨床医学系講座、総合医学教育学講座、社会医学講座がそれぞれの担当の中で地域医療に関する講義を行うとともに、学外の地域医療機関の協力の下で診療参加型臨床研修を実施し、地域医療に関する卒前臨床医学教育の充実に努めている。</p> <p>一方、医学教育の在り方に関する検討の中で、地域医療を担う優秀な医師の養成にあたっては、卒前医学教育、卒後臨床研修、大学院教育、医師生涯教育を一貫して見通し、改善を図っていくことの重要性が指摘されている。</p> <p>北秋田地域の中核病院である大館市立総合病院は、消化器外科学講座をはじめとする臨床医学系講座との密接な協力関係の中で卒前・卒後医学教育の場を提供し、一方、医学研究科は大学院教育や生涯教育の場の提供、さらに、がん等の地域における重要な疾患に対する診療支援等を行うことで、相補的に北秋田地域の医療の充実と社会福祉に貢献してきた。</p> <p>本寄附講座の設置は、多くの臨床医学系講座、総合医学教育学講座、社会医学講座との連携の下、地域医療に対応できる診療能力を有する医師育成のための卒前・卒後医学教育の在り方に関する研究、及びがんを中心とする地域において重要な疾患の予防、診断、治療に関する研究をさらに推進するものであり、また、大学院教育も含めた医師の生涯教育を実践することで、地域医療、特に北秋田地域における地域医療の一層の充実を図る必要があることから、寄附を受け入れたものである。</p>	<p>寄附講座設置日：H25.10.1 設置期間：H25.10.1～R5.3.31</p> <p>平成25年度 20,000,000円 平成26年度 30,000,000円 平成27年度 30,000,000円 平成28年度 30,000,000円 平成29年度 30,000,000円 平成30年度 33,000,000円 令和元年度 33,000,000円 令和2年度 33,000,000円 令和3年度 33,000,000円 令和4年度 33,000,000円</p>

令和4年度地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公 表 者：国立大学法人弘前大学長

-	寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
5	青森県	70,000,000	令和4年7月5日	<p>寄附講座 (総合地域医療推進学講座)</p> <p>超高齢化や新専門医制度を踏まえ、本学を起点とし青森県内の大小医療機関を循環するオリジナルの地域循環型医師育成支援システムに関する総合的な研究を通じて地域医療の充実に寄与することを目的とするほか、周産期医療従事者及び障害児者医療従事者の育成及び在り方に関する研究を通じて地域医療の充実に寄与することを目的とする。</p>	<p>弘前大学大学院医学研究科では、多くの臨床系講座、総合診療医学講座、社会医学講座がそれぞれの担当の中で地域医療に関する講義を行うとともに、学外地域医療機関の協力の下で診療参加型臨床研修を実施し、地域医療に関する卒前臨床医学教育の充実に努めている。</p> <p>わが国では、世界に類を見ない高齢化が急速に進行しており、65歳以上の高齢者が3,000万人を突破した。まさに超高齢時代を迎えたといっても過言ではなく、今後更に高齢化は進んでいくものと予想される。高齢化が進行すれば従来の領域ごとに専門分化した医学だけでは対応しきれない状況となってくることから、総合診療専門医の育成が急務となってきている。このような事情を背景として、国は2017年度から新たな専門医制度を開始しようとしており、その制度において新たに「総合診療専門医」を創設することを決定した。今後、相当数の総合診療専門医の誕生に向け、わが国の医師養成体制は大きく変貌する可能性がある。青森県における地域医療充実のためには旧来の内科医、外科医等の育成に加え、新たな地域医療の担い手である総合診療医の育成が欠かせない。そのため、本寄附講座を中心として、若手医師がキャリア向上を図ることができる地域循環型医師育成システムを構築し、地域医療の恒常的な充実を図っていく必要がある。</p> <p>また、地域医療充実にあっては、周産期医療従事者及び障害児者医療従事者の確保も喫緊の課題であるが、この状況を解消するにはまだ相当の時間を要すると考えられる。本学に求められているのは、これらの人材育成と、地域の周産期医療及び障害児者医療の在り方に関する実践的研究である。</p> <p>以上のことから、これらを担うための講座設置が必要であるため、寄附を受け入れたものである。</p>	<p>寄附講座設置日：H28.5.1 設置期間：H28.5.1～R8.3.31</p> <p>平成28年度 60,000,000円 平成29年度 60,000,000円 平成30年度 70,000,000円 令和元年度 70,000,000円 令和2年度 70,000,000円 令和3年度 70,000,000円 令和4年度 70,000,000円 令和5年度 70,000,000円(予定) 令和6年度 70,000,000円(予定) 令和7年度 70,000,000円(予定)</p>

令和4年度地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公表者：国立大学法人弘前大学長

-	寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
6	三沢市	20,000,000	令和4年8月17日	<p>寄附講座 (地域医療支援学講座)</p> <p>青森県、特に三沢地域での重要な疾患に関する研究の推進及び実践を通じて、地域医療（特に高齢者医療と周産期医療）の充実と住民の健康増進を図ることにより、地域住民がライフステージに応じて健やかで心豊かに生活できる地域社会の実現に寄与することを目的とする。</p>	<p>弘前大学大学院医学研究科では、多くの臨床医学系講座がそれぞれの担当の中で地域医療に関する講義を行うとともに、学外地域医療機関の協力の下で診療参加型臨床研修を実施し、地域医療に関する卒前臨床医学教育の充実に努めている。また、医学教育の在り方に関する検討の中で、地域医療を担う優秀な医師の養成にあたっては、卒前医学教育、卒後臨床研修、大学院教育、医師生涯教育を一貫して見直し、改善を図っていくことの重要性が指摘されている。</p> <p>一方、わが国では世界に類を見ない高齢化が急速に進行しており、65歳以上の高齢者が3,000万人を突破した。今後、更に高齢化は進んでいくものと予想される。とくに青森県では、高齢者人口の急激な増加に加えて、若者の都会への流出による少子化、人口減少も急速に進行しており、大きな問題となっている。</p> <p>ますます増える高齢者に対する地域医療の充実が喫緊の課題ではあるが、加えて「安心して妊娠・出産できる医療体制」の確立がなければ、人口減少、少子化に歯止めをかけることはできない。</p> <p>このような青森県の現状を鑑み、地方における高齢者医療の推進と同時に周産期医療の改善を目的とする寄附講座「地域医療支援学講座」の創設は、三沢地域に対する大きな医療貢献のみならず、少子高齢化に対する新たな取り組みとしても注目されることから、寄附を受け入れたものである。</p>	<p>寄附講座設置日：H31.4.1 設置期間：H31.4.1～R7.3.31 令和元年度 20,000,000円 令和2年度 20,000,000円 令和3年度 20,000,000円 令和4年度 20,000,000円 令和5年度 20,000,000円（予定） 令和6年度 20,000,000円（予定）</p>
7	沖縄県病院事業局	1,500,000	令和4年8月31日	<p>北部地域及び離島医療研究事業 実地診療研究助成</p>	<p>へき地医療拠点病院である沖縄県八重山病院から依頼を受け、本学から医師を2名派遣することとなった(2019年4～9月、2019年10月～2020年3月)。そのことに対し、沖縄県から離島勤務医師に対する助成制度を利用した寄附の提案を受け、本学の研究活動等幅広く活用するため寄附を受け入れたものである。</p>	
8	沖縄県病院事業局	1,500,000	令和4年10月31日	<p>北部地域及び離島医療研究事業 実地診療研究助成</p>	<p>へき地医療拠点病院である沖縄県八重山病院から依頼を受け、本学から医師を2名派遣することとなった(2019年4～9月、2019年10月～2020年3月)。そのことに対し、沖縄県から離島勤務医師に対する助成制度を利用した寄附の提案を受け、本学の研究活動等幅広く活用するため寄附を受け入れたものである。</p>	

令和4年度地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公 表 者：国立大学法人弘前大学長

-	寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
9	沖縄県病院事業局	1,500,000	令和5年1月31日	北部地域及び離島医療研究事業 実地診療研究助成	へき地医療拠点病院である沖縄県八重山病院から依頼を受け、本学から医師を2名派遣することとなった(2019年4~9月, 2019年10月~2020年3月)。そのことに対し、沖縄県から離島勤務医師に対する助成制度を利用した寄附の提案を受け、本学の研究活動等幅広く活用するため寄附を受け入れたものである。	